

「学び」の大切さを実証したワークショップ

福岡県 北九州婦人教育研究会
古川 裕子（ふるかわ ゆうこ） 70歳

「北九州婦人教育研究会の50年の歴史の重みを感じ、学習することの大切さを学んだ」
「会の活動は、向学心を共有することが地域づくりにつながる実例」ワークショップ参加者のアンケートに綴られた言葉は温かかった。

2016年度、会員を対象に実態調査を実施。会員の活動内容は多種にわたり、男女共同参画への関心の深さをうかがわせるものだった。データ化し、丁寧に読み合わせ、仕上げるのに1年以上を要した。報告書は単にまとめるだけでなく、アンケート結果を分析・検証した。

「北九州市の女性の活動実態」と「地域づくりにおける男女共同参画推進」をテーマにワークショップを企画、2017年度の男女共同参画推進フォーラムに参加した。会と会員のさらなる躍進を目標に北九州市から会員19名でいざ武蔵嵐山へ。

50年前、北九州市が主催する国内研修に参加した先輩方が、「学び続けることの大切さ」を主張し会を発足させた熱い思いを、改めて体験することができたが、会の躍進のための新たな発見もあった。学び続けることが会員の資質を高め地域貢献につながるという趣旨に基づき、これまで「自主学习団体」であることを自負してきた。しかし、会の活動を発表し全国の方々の意見を聞く機会をいただいた今回の研修で、活動内容を「見える化」する意義を考え、「自主学习団体」に甘んじることなく社会貢献することを考える機会をいただき、会の生まれ変わりを予感させるワークショップとなった。